

第4回 鈴鹿亀山道路有識者委員会 議事要旨

1. 日時・場所

平成27年9月3日(木) 13:00~15:00

三重県勤労者福祉会館 6階講堂

2. 委員 (五十音順・敬称略)

委員長：名城大学理工学部社会基礎デザイン工学科教授 松本 幸正

委員：三重大学人文学部法律経済学科教授 朝日 幸代

NPO法人弱者のための暮らし・まちづくり支援センター副理事長 岩田 俊二

名古屋工業大学都市社会工学科准教授 増田 理子

パブリック・ハーツ株式会社代表取締役 水谷 香織

3. 議事

- (1) 前回までの委員会のまとめ
- (2) 配慮書への意見
- (3) 概略計画案の選定及び対応方針の決定

4. 議事録

【有識者委員会への報告事項】

- (1) 前回までの委員会のまとめ
- (2) 配慮書への意見

・前回までの委員会のまとめ、配慮書への意見の内容について、了解する。

【有識者委員会への意見聴取】

- (3) 概略計画案の選定及び対応方針の決定

概略計画案の選定

- ・複数案の比較評価において、「ルート1 市街地北部ルート」と「ルート2 市街地通過ルート」のルート設定の趣旨が分かりにくいいため、ルート設定の趣旨を分かり易く表現することが必要である(資料1-P17)。
- ・概略計画案の選定として、プラス面だけではなくマイナス面も含めて記載するか、ネガティブな意見が少ない場合は、その旨記載し、メリットだけではなくデメリットの側面から見ても問題無いという表現とすることが望ましい(資料3-P3)。
- ・上記を前提とした上で、概略計画案を「ルート1 市街地北部ルート」とすることについて、妥当と判断する。

鈴鹿亀山道路における対応方針

- ・自然環境や重要な史跡及び鈴鹿亀山地域の主な企業について、位置関係が把握できるように、インターチェンジの配置検討と同様に、図面を参考図として添付することが望ましい(資料3-P4)。
- ・計画策定段階、事業実施段階における配慮・留意事項について、維持管理段階も含める方が良い。(資料3-P4)。
- ・コミュニケーション活動の継続は、県民等に対する情報提供や意見集約だけではなく、事業を進めていく上で、意思決定にできる限り反映するという点を記載することが望ましい(資料3-P4)。
- ・上記を前提とした上で、対応方針については、妥当であると判断する。



以上